



なぞって練習 [行書体]

「老体になつておりま
して、岩窟を一步出
ることもむずかしいの
ですから」
僧の返辞はこんなな
だった。
「それではしかたがない、
そつと微行で行つてみ
よう」
こう言っていた源氏
は、親しい家司四、
五人だけを伴つて、
夜明けに京を立って
出かけたのである。
郊外のやや遠い山であ
る。

■参考

※岩窟 [がんくつ]

※返辞 [へんじ]

※微行 [いこう]

※家司 [けし]

(青空文庫のフリガナより)